

## 外郭団体に関する特別委員会での意見・要望

## 平成 20 年度 外郭団体に関する特別委員会

- 今後とも市民の意見を聞いていただきながら、よい大学にしてほしい。
- 今後も法人化されたメリットを活かして、教育面でも、経営改善面でも進めてほしい。
- 独法化すれば経営改善がされて神戸市からの持ち出しが少なくなると思っていたが、（運営費交付金による）施設改修はしてほしいとも思う。
- 現状の外大は、教授陣あるいは教育プログラムの差別化で、全国レベルの情報発信ができていいのか疑問に思う。全国的に有名な目玉教授がいるとか、全国的にユニークかつ実効性の高い教育プログラムに取り組んでいるとか、そういった目玉としての P R がないのか。
- 市の税金で育った生徒が、市の社会経済に貢献したり、発展に寄与しているのか見えにくいし、自覚しているのかも心もとない。教員の研究も、半分ぐらいは神戸の国際経済文化に何らかの形で役に立てばという思いでやってほしい。市税投入額に見合うものを明確に運営側は定めていくべきだと思うし、学生も教員も認識すべきである。
- 教員の人事評価、給与システムについては、基準ユニットにより一歩前進したと思うが、成果の部分を工夫して測定し、待遇に反映していくことに取り組んでほしい。

## 平成 21 年度 外郭団体に関する特別委員会

- これからは貿易等の関係で中国は大きな位置を占める。地震のつながりで四川省、港の関係で上海などの大学と交流協定をたくさん締結していただき、学生の交流をもっと促進できないか。特に四川省は地震から立ち直るという大きな共通点があり、外国語大学だけでなく神戸市として交流するメリットもたくさんあると思うので、交流協定を検討してほしい。
- 運営費交付金が減らされていく中で、減らされた額を次の大きな収入である授業料で補わざるを得ない状況が国立大学でも現れている。授業料について神戸市独自で決められるのであれば、安く学べる外国語大学を目指すのも一つではないか。その方が優秀な人がたくさん集まると思う。運営費交付金として必要な額は出して、学費は上げないでほしい。
- 教員の手当制度に研究活動の成果を反映することについては、導入の是非は別として、研究そのものに支障が出ないように配慮してほしい。
- 景気後退の影響で、全国的に学費の滞納が増えていると聞いている。外大では特段の変化がないということでよいが、何かあればしっかり対応してほしい。
- 各大学では高校からの受験者のみでなく、主婦や一度大学を卒業した人を対象にしてパイを増やす努力をしていると聞く。アメリカの大学は少し時間があつたら学生として入学できる。講座だけを聴けるという意味ではなく、非常に入学しやすい。そういうふうに入れる方のパイを増やすべきではないか。

- 科学技術大学では、地域によく入っているいろんなプロジェクトをしているという話を最近よく聞くが、外大の話は聞くことが少ない。市税を投入しているので、もう少しアピールすべきである。
- 中国に行く通訳はみんな学生で、非常に上手である。使われるから勉強しないといけないという必然性があるのかもしれない。
- 外部研究資金の導入促進について、市からの運営費交付金は限られているので、それ以外で自由に使えるお金を増やすことは大事である。
- 企業とのつながりも大事である。外大で学んだ人材はそれぞれ企業に就職していくことになるので、もっと企業から資金を調達できないのか。まだまだ企業とのネットワークはつながっていないと思う。

### 平成22年度 外郭団体に関する特別委員会

- 卒業生の中に、(外務省の)岡田さんのように大活躍している人たちがいるのであれば、そういう人たちを大学としてもPRすべきである。
- 英語の社内公用化になってくれば、外大としては大いなる追い風が吹いたと考えるべきである。これは進んでいくことがあっても、止まることはないと思う。
- ユニティの公開講座の参加者は少なくなりつつある。受講者のアンケートをとっているが、今まで何回か来ていたのに、最近、受講しない人へのアンケートをとったほうが、適切な判断ができると思う。私は魅力的な講座が、最近はないと思う。
- 外大に入った限りは、卒業までに短期か長期かは別にして、1回や2回は海外に留学させるという方針を立ててもらいたい。
- 外国語に対する国内需要は、非常に高まっていると思う。それを生かした外部研究資金を集める工夫ができないのか。
- 最近の大学は受験料を増やす努力をしている。受験者数を増やすという工夫をもう少し考える必要があるのではないか。財政を安定化させるためにも必要ではないか。
- 外部研究資金については、ユニクロや楽天などの企業研修に外大から派遣するなど、集め方をもう少し工夫したらどうか。市立外国語大学ならそこまで言わないが、独立法人化したのならそこまでやるべきではないのか。
- 独立法人化した以上は、もっと変わっていかなければならない。現状を維持することは可能であるが、脱皮していくためにはかなり真剣に考えないと、中途半端になってしまう。市立大学であれば市民も分かりやすいが、独立法人化して少し距離が離れているので、中途半端ではなく徹底したほうがよい。そうでないと、単科大学の場合、逆にジリ貧になっていくこともありえるので、それは絶対に避けないといけない。
- 外部研究資金について、経営的手腕を発揮してお金を稼がないといけない。金額的にたいしたことはないが、うまくやらないといけないのではないか。
- 市内企業や市民のニーズ、社会の変化を分析して、それを大学のマネジメントに生かしていくには人材に尽きると思う。

- 世界的にも中国へのニーズがあり、中国からも日本への留学生が非常に多いという状況にある。そういう対中国のことを考えた的確な教授陣を揃えているのか。
- 本当に地方独立行政法人のメリットを生かしきれているのか疑問である。外部研究資金の新たな調達とか、時代に即応したダイナミックな経営が問われている。人材の配置ももう少しダイナミックにしないといけない。今、外国語に対するニーズは非常に高いが、その環境に甘えてはいけいない。大学間競争は非常に厳しくなっている。
- 欠落していると思うのは、市内の企業との連携である。卒業生の就職にも係わってくることなので、しっかりと企業のニーズを吸い上げて連携してやらないと、独立行政法人としてのメリットを生かせないと思う。
- 淘汰されないようにしっかりと経営感覚を磨きながら、市内企業や市民ニーズを吸い上げる必要がある。これは外部から入れないと、内部だけでは難しいと思う。職員の配置、教授陣の配置についても積極的に取り組んでほしい。
- 外国語大学を受験する方は国際社会で活躍したい、興味があるという方が多いと思うので、その夢を実現するために人を磨くという教育が必要である。それが本当の意味での行動する国際人、国際的に通用する人材であると私は考えている。そういうこともカリキュラムにおいて、将来的には考えてほしい。
- 外国語大学を出た人が国際的に活躍できるとなれば、企業も興味を持ってくる。そうすると、経営面でも企業と連携し、欧米諸国のように企業からの経済的支援を受けられるような体制づくりができるのではないかと思う。
- 外大で勉強されている方々が、神戸市の観光に資するようなところでもボランティアできるよう、学校としてバックアップすることを考えてもらえないか。
- 外大の設立趣旨は、質の高い国際人を輩出していくことであり、まして神戸市が市税を投入しているのであれば、優秀な人を輩出して、そういう人たちに神戸市に就職していただいて、地域に貢献してもらわないといけない。

### 平成23年度 外郭団体に関する特別委員会

- パソコンの台数が5人に1台というのは、公立大学として少ないというイメージである。1人1台が常識になりつつある。まして、wi-fi環境での接続は必須であり、受験者の大学選びの差別化の要因にさえならない状況になっていくと思っている。
- 学生支援体制について、2,100名の学生に対してカウンセラー1名だけでは、学生の相談を受ける体制としては不十分であると思う。カウンセラーを充実して、学生にゼミなどを通じて広報してはどうか。
- 2%前後の学生が中退されており、決して見過ごせない数字である。生活の状況から見たら53万円の授業料が大きな負担になっている。授業料の減免制度の基準を緩和して認定枠を増やすべきではないか。
- 授業料を払っているのは学生であり、学生に限られた時間の中で行ってよかったと思える大学になって、世間に羽ばたいてもらえる環境を整えていくためには、学生の声をしっかりと反映させる大学にならないといけないと思う。

- 教授会は 88 名の教員とその他職員で構成されているが、学生や院生、留学生などとゼミや講義で、また、職員であれば学生課や教務課、保健室で接しており、日常の学園生活の中で一番要求をつかめるポジションにあるので、教授会の役割と権限を拡げなければならないのではないかと。
- 評価結果の報告書について、非常に見づらいとの印象を受けた。同じ独法の市民病院が評価結果の報告書は、メッシュが細かくて、PDCAのチェック状況がよく分かる。評価委員会の委員も法人の評価をベースにして、そのうえで評価していると思うが、委員も非常に評価しづらいのではないかと。もう少し工夫して、私たちや市民に分かりやすく、チェックしやすいように、見える化に努めていただきたい。
- しっかり勉強した方が、就職などに安心できることが必要ではないかと思う。外大の名前が全国に知れ渡って、外大に入れば就職がしっかりできるということになるよう、今後、学校としてやっていただきたい。
- 経営面では運営費交付金が半分、授業料・入学金が半分で、半分は学生がお金を出しているわけであり、学生の声をいろいろ反映させられるように考えていただきたい。カリキュラムや情報化社会への対応、就職への対応など、評価委員会だけでなく学生も書ける中身なので、学生にも書いていただいて、それを評価委員会に見せて、学内でも検討する。それに基づいて第2期中期計画をどうしていくかを考えていただきたい。
- 理事長と役員・教職員が一体となって中期目標及び中期計画の達成に向けて頑張っていきたいと書かれているが、そのときに主体である学生も入れて、目標を明確にして進んでいくべきである。
- 外大は、外国語の単科大学で、コンパクトで、公立で、極めて優秀な方が入ってきており、卒業後もいろいろ活躍されている。そういう意味で、外向きの広報をしていただきたい。市民のためにもいろいろやっていることについて、広報に力を入れてやっていただきたい。
- 今年の7月頃から東京大学が9月入学を検討しているということで話題になっている。大学、大学院を卒業した後、アジアの中で、どう生き残っていくかということが、日本としても、神戸としてもあると思う。現状のままではいろいろ問題点があると思うが、ぜひ次期中期計画の中では、抜本的な大きい視点で考えてほしい。外大は外国語専門の大学であり、国際都市神戸の大学でもあるので、全く既存ではないような考えを持って、中期目標、中期計画を立てていただきたい。
- 就職支援については、たいへん厳しいと思うがよろしくお願ひしたい。すばらしい卒業生が多数いるということで、これからも真の国際人の育成をめざしていただきたい。